

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	運動学習支援教室スマイルパレット日向北町	公表日	令和 8年 3月 20日
------	----------------------	-----	--------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	0	0	児童の机を壁に寄せる等して、児童の生活スペースは十分に確保できている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	2	今年度の初めは一日の利用が3名だったが、現在は定員の10名となった。職員の人数は変わらないので少なく感じるかもしれないが、こどもの状態としては、宿題以外はマンツーマンで支援が必要な児童はいないため適切であるように思う。ただ送迎が重なる場合には職員が足りない時間帯もあるので、その場合は少ない職員で児童を見守ることができるように、予め工作やぬり絵等、室内で静かに遊べるような準備をしている。	送迎が重なる場合は職員が不足してしまう時間帯があった。4月からは二事業所目が開所し、それに伴い職員の数も倍になり、二事業所間で協力して送迎ができるのでこの問題は解決するのではないか。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	2	児童がぶつかってもケガをしないように壁一面にマットがある。	事業所は2階にあるため、階段の上り下りが必要であり、歩行が困難な場合は支援が必要である。ただ手すりもあり、階段幅も広いので、職員のサポートがあれば上り下りはできる。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	0		自由遊びとなると室内で元気に走り回る子もいるので騒がしいと感じる子もいる。そういった場合の対策として、二事業所になり職員が増えたら、室内と外に別れる等して、室内は宿題をする子や静かに遊ぶ子用にしている。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	0	今は他に二部屋空いていることもあり、職員の人数に余裕がある場合は、クールダウンするために他の部屋を利用している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	1	2		Plan（計画）の段階で、もっと職員間で話し合いたいとの意見が挙がる。話し合いは毎日行っているため、職員間で話し合っていて決めることと、管理者が決めることの線引きを精査していきたい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	今回、初めて自己評価を行った。年に一回だと保護者様の意向を汲み取れないように感じたので、今後は日々のお見送り時や保護者会、他にもアンケート等を実施することにより、もっと意向を汲み取れるようにする。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	2	今年度の途中から、朝に必ず朝礼や会議をし、前日の振り返りや今日の療育の話し合いをしている。（だがそれを業務改善につなげられていない時もあるので、話だけで終わることがないようにしたい。）	話し合ったことを実行するかは個々の職員によって分かれるので、まずは話し合ったことを実行してみて、その結果を元に再度話し合いをしてから、必要に応じて改善するという流れを徹底していきたい。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	3	外部ではないが、フランチャイズの当社である大分のスマイルパレットから月に二回のご来店があり指導やアドバイスがある。またトーフクの上司からも日々助言やサポートがある。それを職員間で共有することにより、日々業務改善につなげている。口頭ではあるが、相談支援事業所を始めとする各関係機関からアドバイスをもらうこともある。	今後は相談支援事業所等にアンケートを取る等して、外部の評価を取り入れては、業務の質を上げていきたい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0		
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	0		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	0		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	3	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	0		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	0	地域の公園で遊ぶ際に、地域の子も達と挨拶や会話を交わすと共に、希望すれば保護者さんに了承のもと、一緒に遊んだりしている。	行事等による交流はできていないので、今後は一緒に活動できる機会を設けていけるように、まずは児童が通っている保育園や幼稚園等に働きかけてみる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	0		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	家族等の参加できる研修は、前回の保護者会の際に「食」をテーマに行った。（1回のみなので、今後は回数を増やしていきたい。）	家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）に関しては、個別支援計画書に記載して、ご希望のご家庭には提供できるように周知しているが、まだご利用はない。保護者様がもっとご利用しやすいような声かけや支援方法を考えていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	0		保護者会は年に一度開催しているが、参加できない保護者様もいるので、回数を増やしたり、他にも親子交流行事したりする等して、保護者同士の交流の機会を増やしていきたい。またきょうだい向けのイベントはしたことがないので、今後はきょうだいの参加できる親子交流行事等を行うことにより、きょうだい同士の交流の場も設けていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	0	地域の住民の方は招待していないが、児童が通っている保育園や幼稚園を中心に地域の事業所に見学に来るように声かけはしたり、チラシを配布する等して周知している。	まずは同建物にあるデイサービスに通っている高齢者との関わりを持つことから始めていきたい。その中で地域に開かれた行事について模索していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0		日々子どもの安全確保について取り組みはしているが、そのことを保護者様に全体として周知はしていなかったため、今後はHUGの一斉配信やSNS等を活用して周知するようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	ヒヤリハットの事例があった場合には、専用の用紙に記入する等して、職員間で共有し、必要に応じて話し合いをしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0		研修はしているが、そのことを保護者様に周知はしていなかったため、今後はHUGの一斉配信やSNS等を活用して周知するようにする。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	0	個別支援計画書の作成の際に、基本はないとお話した上で「他のお子さまや自分自身を傷つけたり、物を破損したりする恐れがある場合は、一時的に身体拘束する可能性がある」と口頭でお伝えしている。		